

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：26201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463390

研究課題名(和文)個人・家族のウェルビーイングに繋がるセクシュアリティのモデルと尺度開発

研究課題名(英文) Model and scale development of sexuality leading to personal and family well-being

研究代表者

三木 佳子 (Miki, Yoshiko)

香川県立保健医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：60584175

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：炎症性腸疾患(IBD)患者のセクシュアリティ満足度指標を開発した。この指標は5因子(日常の相互作用, 性的コミュニケーション, 性行為の困難度, 性行為への関心度, スキンシップの重視度)で構成された。

さらに, 主観的セクシュアルウェルビーイング(SSWB)の特徴を明らかにした。「あなたにとって性的で幸福で満足できる状態とはどのようなことですか」の自由回答を分析した。SSWBは7つのカテゴリ(性的欲求の満足, 相互の思いやり, 精神的安定, スキンシップの充実, 身体的健康, 良好なコミュニケーション, 共に過ごすこと)があった。男女には相違があることなどが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：We developed a sexuality satisfaction index of patients with inflammatory bowel disease (IBD). This indicator was five factors: daily interaction; sexual communication; difficulty of sexual activity; degree of interest in sexual activity and emphasis on skin ship. Furthermore, we were clarified the characteristics of subjective sexual well-being(SSWB). Analysis was performed on the self-descriptions responding to the question, "How would you envisage a state that is sexually pleasing and satisfying?" SSWB consists of seven categories: Satisfaction of sexual needs; mutual empathy; psychological stability; realization of "skinship" (physical intimacy); physical health; good communications; and spending time together, and clear differences in SSWB were observed between male and female patients.

研究分野：医歯薬学

キーワード：セクシュアリティ 炎症性腸疾患 ウェルビーイング 尺度開発 テキストマイニング

1. 研究開始当初の背景

(1) 炎症性腸疾患 (inflammatory bowel disease, 以下 IBD) は、思春期に発症し、消化管にびらんや潰瘍を形成する難治性の炎症性疾患である。特定疾病に指定されており、潰瘍性大腸炎 (ulcerative colitis, 以下 UC) とクローン病 (Crohn's disease, 以下 CD) の2疾患で構成される。IBD の発症や増悪には、ライフイベントが先行することが多く、セクシュアリティの問題を抱えていることが指摘されている。

(2) セクシュアリティの悩みに対応できる保健医療者は、高度な専門的知識や豊富な臨床経験をもつ者に限定されている。多くの保健医療者は、セクシュアリティへの介入は消極的である。このため、患者は、適切な支援が受けられずに悩みを抱えたまま日常生活を送っている。保健医療者、患者双方に性的問題について話すことに抵抗感を抱いている。セクシュアリティについて表出することに抵抗感があるからこそ、アセスメントに繋がる測定用具の開発が必要である。

(3) どのような性のあり方を望んでいるかは、個人の価値観や夫婦の関係などによって異なる。ウェルビーイングは人々の究極の目的である。性に関する悩みをもつ患者の心理的サポートを役割とする保健医療者にとって、患者の主観的セクシュアルウェルビーイング (subjective sexual well-being, 以下 SSWB) を理解することが肝要である。

2. 研究の目的

(1) IBD 患者のセクシュアリティを支援に活用可能な妥当性と信頼性が検証されたセクシュアリティ満足度指標 (SEXSI-IBD) を開発する。

(2) IBD 患者が SSWB をどのように捉えているのかを明らかにし、さらに、患者の属性別にみた SSWB の特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) SEXSI-IBD と SSWB の自記式質問紙調査

IBD 患者が所属する全国の自助団体 15 力所の代表者、IBD 患者が通院する病院 14 力所の医療職者に協力を得て、無記名の自記式質問紙調査を実施した。質問紙は、属性患者の属性 (性別、年齢、UC か CD の区別、ストーマの有無、主観的体調、性的対象者との主観的關係) と SEXSI-IBD 原案と SSWB に対する質問から構成される。

SEXSI-IBD 原案は、先行文献のセクシュアリティの操作的定義 (個人の性的特性と性的対象者との相互作用) に基づく 32 の質問項目からなる。質問項目への回答は「全くない」から「おおいにある」の 5 段階とした。SSWB の質問は、SSWB の操作的定義 (当事者が捉える性的に幸福で満足できる状態) に基づき、質問項目「あなたにとって性的に幸福で満足できる状態とはどのようなことですか？」を

設けて自由回答とした。

(2) SEXSI-IBD の開発と信頼性・妥当性の検証の分析

項目分析と信頼性を確認するために再テスト法を実施し、内的整合性の確認に、クロンバック係数とスピアマンブラウンの公式による折半法を使用した。基準関連妥当性の検証するために夫婦に関する夫婦関係満足尺度を使用し、構成概念妥当性の検証には探索的因子分析を行った。

(3) IBD 患者の SSWB と属性の特徴の分析

テキストマイニングスタディオ (以下 TMS) のバージョン 6.0 (NTT データ数理システム) を使用し、グラウンデッドなテキストマイニングアプローチ法を参考に分析した。係り元単語と係り先単語という 2 つの単語の組み合わせ係り受けを抽出し、コードとした。係り受けの類似性と相違性を検討してグルーピングを実施し、グループ名をつけてカテゴリ化した。特徴語分析は、特徴的なカテゴリの抽出は、Fisher の直接確率法による補完類似度を指標値として行った。

(4) 倫理的配慮

本研究は、所属大学の倫理審査委員会からの承認を得た後に実施した。研究協力は自由意思であること、研究への参加は拒否できること、拒否しても不利益を被ることはないこと、個人情報保護などについて、対象者に文書で説明した。データは研究室内の鍵のかかる書庫内に保管し、情報漏洩がないよう配慮した。研究関連資料やデータの保存は、研究の最終公表後 5 年間とした。

4. 研究成果

(1) 自記式質問紙調査

964 名に質問紙を配布し、208 名からの返送があった (回収率 21.6%)。

SEXSI-IBD の開発と信頼性・妥当性の検証は、208 名から無効回答を除外し、195 名を分析対象とした。対象者の平均年齢は 46.8 (SD = 11.1) 歳、男性 94 名 (48.2%) 女性 101 名 (51.8%)、であった。疾患名は、UC が 118 名 (60.5%)、CD が 76 名 (39.0%)、UC と CD の両方が 1 名 (0.5%)、ストーマの有無では、ありが 60 名 (30.8%) なしが 132 名 (67.7%)、無回答が 3 名 (1.6%) であった。

「あなたにとって性的に幸福で満足できる状態とはどのようなことですか？」の自由回答は 95 名の記述があった。性別と年齢の両方に記入漏れがあった 3 名、自由回答への記述が「わかりません」「考えたことがない」などのように内容がない 4 名を除き、88 名の質問紙を有効回答として分析した。性別で見ると、男性が 31 名 (35.2%)、女性が 57 名 (64.8%) であった。平均年齢は 46.7 歳 (SD = 11.0) であり、年齢層は 40 歳代が最も多く、正規分布を示した。IBD の疾患名は、UC

が 54 名 (61.4%), CD が 33 名 (37.5%) であった。ストーマの有無は、ありが 33 名 (37.5%), なしが 54 名 (61.4%), 無回答が 1 名 (1.1%) であった。

(2) SEXSI-IBD の開発と信頼性・妥当性の検証

項目分析：SEXSI 得点の天井床効果を確認した結果、偏りのある項目は認められなかった。各項目間の相関を確認し、0.7 以上の強い相関があった項目を検討し 4 項目を削除、最終項目数は 28 項目にした。

信頼性の検討：再テスト法の回答者は 39 名であった。1 回目と 2 回目の SEXSI 得点の ICC は $r = 0.95$ と完全一致を示し再現性が確認された。内的整合性の指標である 5 因子それぞれにおけるクロンバック 係数は 0.82 から 0.91 の範囲であった。SEXSI-IBD 全体のクロンバック 係数は 0.94、スピアンマン ブラウン係数は 0.90 であった。各因子間も全体でもクロンバック 係数が 0.8 以上であった。

妥当性の検討：夫婦関係満足度尺度の回答者は 38 名であった。SEXSI 得点と夫婦関係満足度尺度とのスピアンマン 係数は 0.68 であった。0.6 から 0.7 の間であり、やや強い相関を示した ($p < 0.01$)。探索的因子分析は、主因子法、カイザー法で正規化を伴うバリマックス回転により、5 因子が抽出された。回転後の累積寄与率は 62.6% であった。第 1 因子は、「パートナーは、私に思いやりのある態度を示していると思う」や「パートナーは、日常生活において私の希望や要求を理解しようとしている」の観測変数に対して高い因子係数を示した。これらは日常生活におけるお互いに対して示す態度を反映している。したがって【日常の相互作用】と命名した。第 2 因子は「パートナーは、私に性的な満足を言葉で伝えている」や「私は、パートナーに性的な満足を言葉で伝えている」が高い因子係数を示した。したがって【性的コミュニケーション】と命名した。第 3 因子は「私は、性行為を精神的に苦痛に思うことがある」と「私は、性行為を身体的に困難と覚えることがある」が高い因子係数を示したため【性行為の困難度】と命名した。Factor 4 は、「私は、性行為の欲求がある」や「私は、性行為に興味がある」が含まれていたため【性行為への関心度】とした。最後の第 5 因子である【スキニップの重視度】には、「私は、日常生活で抱きしめる、手を握るなどのスキニップは必要だと思う」や「私は、日常生活で抱きしめる、手を握るなどのスキニップは大切だと思う」が含まれていた。

男女別、UC と CD 別、ストーマの有無別の SEXSI-IBD の得点は、いずれも相関関係が認められなかった ($p < 0.01$)。SEXSI-IBD の得点は、年齢層とは逆相関を認め、年齢が増すと下がる傾向を示した。

結論

SEXSI-IBD は、個人の性的特性と性的対象者との相互作用の定義に基づき作成した。SEXSI は 28 項目 5 因子 (日常の相互作用、性的コミュニケーション、性行為の困難度、性行為への関心度、スキニップの重視度) から構成された。SEXSI-IBD 全体のクロンバック 係数は 0.94、再テスト法ではスピアンマン 係数は 0.94、夫婦満足度尺度との相関は 0.68 であった。これらの数値は IBD 患者に使用するには SEXSI-IBD の信頼性と妥当性を示した。

展望と課題

性的な質問が含まれる調査は一般の調査に比べて回収率が低い。本研究の回収率も一般の調査に比べて低く、IBD 患者を代表するデータでない可能性は否めない。また、他の疾患に対しての活用可能性については、さらに調査を行い検証する必要がある。疾病を有する人々には 28 項目数は回答する側からは多いと感じるであろう。今後はさらに項目を厳選し、回答の負担が少ない尺度に洗練する必要がある。

(3) IBD 患者の SSWB と属性の特徴的分析

IBD 患者の SSWB のカテゴリ

IBD 患者の SSWB は 7 つカテゴリが生成された。以下では、カテゴリは【 】の中に示した。

7 カテゴリは、【性的欲求の満足】【相互の思いやり】【精神的安定】【スキニップの充実】【身体的健康】【良好なコミュニケーション】【共に過ごすこと】であった。これらのうち【性的欲求の満足】は回答者数が 26 名、係り受け数も 37 個と最も多かった。その次に多かったカテゴリは【相互の思いやり】で、回答者数は 22 名、係り受け数は 35 個であった。【精神的安定】は 19 名、【スキニップの充実】は 18 名、【身体的健康】は 13 名、【良好なコミュニケーション】は 11 名、【共に過ごすこと】は 10 名であった。

属性別にみたカテゴリの頻度と特徴的なカテゴリ

性別にみた特徴は、男性では【性的欲求の満足】の指標値も頻度も高く、これに集中していた。一方、女性では【相互の思いやり】の指標値も頻度も高かったが、【相互の思いやり】【精神的安定】【性的欲求の満足】【スキニップの充実】に分散しており、女性の SSWB の捉え方が多様であった。このように、SSWB の特徴は、男女間に差がみられた。

年齢別にみた特徴は、全体では、20~39 歳は【精神的安定】、60~79 歳は【良好なコミュニケーション】の指標値が高かった。男女別にみると、男性では、40~59 歳は【性的欲求の満足】、60~79 歳は【身体的健康】の指標値が高かったが、女性では年齢層別では顕著な特徴はみられなかった。

疾患別にみた特徴は、全体では、UC は【相互の思いやり】の頻度が高かった。男女別にみると、UC の男性は【性的欲求の満足】の指

標値が高く、CDの男性は【共に過ごすこと】の指標値が高いという相違があった。また、UCの女性は【相互の思いやり】の指標値が高く、CDの女性は【スキンシップの充実】の指標値が高かった。

ストーマの有無別にみた特徴は、全体では、ストーマありは【スキンシップの充実】【良好なコミュニケーション】の指標値が高かった。男女別にみると、ストーマなしの男性は【性的欲求の満足】の指標値も頻度も、最も高かった。ストーマありの女性は【スキンシップの充実】の指標値が高く、ストーマなしの女性は【相互の思いやり】の指標値が高かった。

主観的体調別にみた特徴は、体調が良い男性は【性的欲求の満足】の指標値が高く、体調が良い女性は【精神的安定】【スキンシップの充実】の指標値が高かった。体調が悪い女性は【身体的健康】の指標値が高かった。

性的対象者との主観的關係別にみた特徴は、関係が良い男性は【性的欲求の満足】の指標値が最も高く、その次は【共に過ごすこと】の指標値が高かった。関係が良い女性は【相互の思いやり】【精神的安定】【スキンシップの充実】の指標値が高く、ばらつきがあった。

結論

IBD患者がSSWBをどのように捉えているのかという新たな知見を抽出することができた。IBD患者が捉えるSSWBは、【性的欲求の満足】のみならず、【相互の思いやり】【精神的安定】【スキンシップの充実】【身体的健康】【良好なコミュニケーション】【共に過ごすこと】と多様であった。これを性別にみると、男性は【性的欲求の満足】、女性は【相互の思いやり】が特徴的であった。ただし、女性では【相互の思いやり】【精神的安定】【性的欲求の満足】【スキンシップの充実】に分散しており、SSWBは多様であるという特徴があった。さらに、SSWBは、年齢、疾患（UCかCDの区別）、ストーマの有無、主観的体調、性的対象者との主観的關係によって特徴があった。

今後の展望

本研究で得られたIBD患者のSSWBは、IBD患者の個性性を反映した支援目標の設定に活用できる可能性がある。しかしながら、SSWBについて考えたことがない患者や自由記述に回答しない消極的な患者の意見は反映されておらず、分析対象となった回答数も少ない。性的という性行為として考える社会的な風潮に惑わされて、性行為以外の選択肢について表現することができなかつたことも推測できる。今後は、本研究で抽出されたカテゴリから選択式質問項目による質問紙調査をIBD患者に実施し、より多いデータから属性によるSSWBの相違点を検証することが望まれる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

三木佳子、法橋尚宏、前川厚子：炎症性腸疾患（IBD）患者のセクシュアリティ満足度指標の開発と妥当性と信頼性の検討（SEXSI-IBD）日本ストーマ排泄リハビリテーション学会誌、査読有、32巻、2号、2016、P.7-20

三木佳子：ストーマ造設に伴う患者の心理的变化 今、求められるストーマ保有者の視方、特集：消化管ストーマ造設と閉鎖術における管理・合併症の基本 10章 消化管ストーマ造設に伴う患者の心理的变化、WOC nursing、5巻、2号、2017、P.69-76

〔学会発表〕(計5件)

三木佳子、法橋尚宏：日本における保健医療領域のセクシュアリティ尺度の検討：測定用具の開発、36回国際ヒューマンケアリング学会、2015、5、21、ニューオーリンズ（米国）

三木佳子、法橋尚宏、前川厚子：セクシュアリティ・ウェルビーイングの検討 - IBD患者が思う性的に幸福で満足できる状態、第32回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、2015.2.28、浦安市（千葉）

三木佳子、法橋尚宏：テキストマイニングによる炎症性腸疾患患者の自由記述の分析による性的ウェルビーイング、第19回東アジア看護学者国際会議、2016.2.19、千葉（千葉）

三木佳子、法橋尚宏：炎症性腸疾患患者におけるセクシュアルウェルビーイングの概念と属性の特徴：テキストマイニング技術を用いた分析、第1回世界ヒューマンケアリング学会、2016.10.15、武漢（中国）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三木 佳子 (MIKI, Yoshiko)
香川県立保健医療大学保健医療学部
准教授
研究者番号：60584175

(2) 研究分担者

法橋 尚宏 (HOHASHI, Naohiro)
神戸大学保健学研究科 教授
研究者番号：60251229

(3) 前川 厚子 (MAEKAWA, Atsuko)

名古屋大学医学系研究科 教授
研究者番号：20314023